

医学研究科における日中異文化相互理解の実態 一言語行動に対する意識を中心に

牧 かずみ
信州大学医学部国際交流室

Cross-Cultural Awareness Seen in the Linguistic Behavior of Chinese and Japanese and a Discussion of Their Value Systems

Kazumi MAKI
International Student Office, Shinshu University School of Medicine

Key words: cross-cultural awareness, differences in value systems, uncomfortable behaviors
異文化への気づき, 価値観の差, 違和感行動

I はじめに

異文化接触は、関わる者の人間的成長を促す可能性をもっている一方で、互いの言語、文化、価値観、生活習慣などに無知であれば、葛藤や対立がつきものである。スムーズな異文化接触が行われるために大切とされる能力や態度について、認知・感情・行動の次元で様々に言われているが、最終的な目標は、双方にとって納得がいく対人行動に近づけることであろう。入学に当たって日本語を要求されない研究科の留学生達は、日本文化や日本人のコミュニケーションスタイルへの知識を持たないままに入学してくる可能性が高い。一方、受け入れる日本人も、留学生達の文化を熟知して受け入れているとは限らない。相手が中国人の場合、同文同種で日本人と類似点が多いだろうと、そのギャップを考えないケースもある。また、寄留者（留学生）がホスト（受け入れた日本人側）文化に適応するのが当たり前で、ホストの認識や行動にも変化が必要であることに思い至らない、といったこともある。その結果は、どちらの対人行動も相手にとっては不適切で、否定的な印象だけが深まっていきかねない。

日本全国で学ぶ留学生の90%以上はアジア出身であり、中国人留学生だけで61%を越えている。当医学部でも外国人と言えば90%以上が中国人という現状である。にもかかわらず、異文化コミュニケーション研究は、発祥地米国を反映して北米対日本文化間であるこ

とが多い。そのような中、留学生の異文化適応を研究してきた田中¹⁾によれば、留学に関わる心身の適応、対人志向性、満足度、人間関係の対処などにおいて、中国人を含む漢字圏からの留学生の適応が、その他の地域の留学生と較べて良くないとの報告もされており、日中異文化コミュニケーション研究が進むことが期待される。日本人と中国人の接触現場で、相互の異文化理解の実状を調べ、誤解や葛藤を未然に防ぐための、相手により理解されやすい対人行動への知見を得る必要があると考える。本論説は、当医学部において調査した、日中間の相手の言語・対人行動に関する認識の実態を、言語行動を中心に報告、考察するものである。

II 調査方法

A 日本人に対する調査

現在医学部において中国人と日常的に接している、あるいは受け入れた経験を持つと思われる教官と教室事務官106名を対象に、中国人の言語・対人行動で気づくことを、違和感を覚えるものを中心に尋ねた。さらに、文化に対する気づきを観る目的で、中国人がどんなことを日本人の言語・対人行動の特徴と捉え、それらの中で、理解しにくいのはどんなことと思うか尋ねた。調査は記述式のアンケートである。（巻末の調査書1を参照）

B 中国人に対する調査

私達日本人が自分の意見をはっきり述べず、周囲に同調するという傾向は、日本人が対立を好まず、強い自己主張を極力避けることを伝えている。一方、英語

別刷請求先: 牧 かずみ 〒390-8621
松本市旭3-1-1 信州大学医学部国際交流室

では、まず Yes, No が文頭で表現されるということは、英語文化が意思表示することに価値を置いていることを表している。しかし、私達は母語でしゃべる限りはこのことに気づかず、外国語をしゃべる時、自分の会話を意識するものである。それ故に、外国語である日本語で生活している留学生達は、日本語の中に見える自文化との相違に私たち以上に敏感である可能性が高い。

表1は、日本の複数の大学・大学院で学ぶ世界各国（23カ国1地域）からの留学生を対象とした小宮らの調査²⁾で挙げた5項目と、同グループが東アジア（中国・台湾・韓国のいわゆる漢字圏）からの留学生を対象とした調査³⁾において顕著に表れたコメントを参考にして、留学生が捉える日本人の話し方の一般的特徴として、筆者がまとめたものである。これを基に、調査書を作成し、医学部に在籍する中国人（研究科に在籍の52名と学部生2名、研究者2名、教官2名を含む）に対して、これらの特徴への同意の度合い、それらに対する感情とその理由について尋ねた。また、日本人の言語・対人行動について、これら以外に気づいていることがあれば、記述するよう求めた。（巻末の調査書2を参照）

Ⅲ 調査結果（言語行動を中心に）

A 日本人の結果

対象とした106名中、42名（回収率40％）から回答

があったが、すべて記述式であったためか、全体的にコメントの数は多くはなかった。また、対人行動と言語行動を混同した回答も多かったため、それぞれに当てはめて集計した。その結果、中国人の言語行動について気づく点は「特にない」が最も多く（11名）、その他複数回答が挙げられたのは以下の通りである。

- ・思い込みで理解している。（4名）
- ・話し方が丁寧で、礼儀正しい。（3名）
- ・声が大きい。（3名）
- ・主張がはっきりしている。（2名）
- ・個人差が大きい。（2名）

その中で、中国人の「はっきりした主張」は、自分でも取り入れたい行動（4名）と違和感がある行動（3名）の両方で挙げられていた。次に、中国人が日本人の話し方の特徴として捉えている事柄にはどんなことがあると思うか、という質問に対しても、「よくわからない」という回答が最も多かった（9名）が、それに続いて「遠まわし表現」（5名）「あいまい、控えめ表現」（5名）、「敬語、社交辞令」（2名）が挙げられた。「遠まわし」「控えめ」表現は、中国人にとって違和感があり、理解が困難だろうと想像する話し方としても、最も多く挙げられていた。

B 中国人の結果

回答があったのは58名中25名（回収率43％）で、回答者の属性内訳は表2 A-Cのとおりである。

1 日本人の話し方への同意：日本人の話し方で「本

表1 日本人の話し方の一般的特徴

①	日本人は「すみません」をよく言う。
②	謙遜する言葉をよく使う。
③	本当の気持ちと違うことを言う。（いつでも遊びに来てください）
④	答えが「はい」か「いいえ」かはっきりしないことがある。
⑤	話の進め方が回りくどく、結論がなかなかでない。
⑥	人が話している時「ええ」「そうですね」などの言葉をよく使う。
⑦	名前の代わりに「あなた」「おまえ」という呼び方をする。
⑧	話を聞いている時よくうなづく。
⑨	話す時、相手の目を見ない。
⑩	お礼の言葉を何度も言う。
⑪	よくほめる。
⑫	自分の考えをはっきり言わない。
⑬	みんなと違うことはあまり言わない。
⑭	自分はあまり話さないで、相手が理解することを期待する。
⑮	話し方がていねい。

表2 中国人回答者属性

A		B		C	
所属身分	人数	性 別	人数	滞在期間	人数
学部生	1	女	14	1 年未満	4
大学院生	22	男	10	1 年以上 2 年未満	4
研究者	1	無記入	1	2 年以上 3 年未満	11
無記入	1	計	25	3 年以上 4 年未満	1
計	25			4 年以上	3
				無記入	2
				計	25

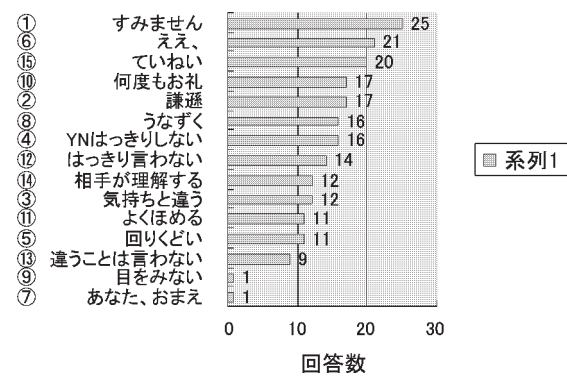


図1 15の特徴への強い同意

表3 日本人の話し方への同意

A 本当にそうだ+少しそう思う				B 全く違う+あまり思わない			
①	すみません	25	100%	⑦	あなた、おまえ	22	88%
⑥	ええ、	25	100%	⑨	目をみない	14	56%
⑮	ていねい	25	100%	⑪	よくほめる	6	24%
②	謙遜	23	92%	④	YN はっきりしない	5	20%
⑧	うなずく	23	92%	⑭	相手が理解する	5	20%
⑩	何度もお礼	23	92%	⑤	回りくどい	4	16%
③	気持ちと違う	22	88%	③	気持ちと違う	3	12%
⑫	はっきり言わない	22	88%	⑫	はっきり言わない	3	12%
⑬	違うことは言わない	22	88%	⑬	違うことは言わない	3	12%
⑤	回りくどい	21	84%	②	謙遜	2	8%
④	YNははっきりしない	20	80%	⑧	うなずく	2	8%
⑭	相手が理解する	20	80%	⑩	何度もお礼	2	8%
⑪	よくほめる	19	76%	①	すみません	0	
⑨	目をみない	11	44%	⑥	ええ、	0	
⑦	あなた、おまえ	3	12%	⑮	ていねい	0	

C 15の特徴への強い同意（在日期间別分布）

在日期间	人数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
1 年未満	4	4	3	1	3	1	3	0	4	0	4	1	3	2	3	4
2 年未満	4	4	4	4	4	4	3	1	4	1	3	4	4	3	4	3
3 年未満	11	11	7	5	7	4	10	0	4	0	8	4	5	3	2	9
4 年未満	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1
4 年以上	3	3	0	0	1	1	3	0	3	0	1	1	1	0	1	1
不明	2	2	2	1	1	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	2
計	25	25	17	12	16	11	21	1	16	1	17	11	14	9	12	20

当にそうだ」と思う特徴の順は図1のとおりである。「少しそう思う」も加えると、①⑥⑮は全員、②⑧⑩③⑫⑬もほぼ全員（92%～88%以上）が「そうだ」と認識していた（表3A）。⑦と⑨は日本語の特徴的話し方だとは思わない回答が圧倒的に多く、⑪の他、④

⑭に関しても日本語の特徴だとあまり思わない者が20%強いた（表3B）。滞在期間との関連では、①⑥は期間の長短に関わらず本当にそうだと思っているが、②⑤⑫⑬⑭は2年以上経ると、そうは思わなくなる傾向が見られた（表3C）。

表 4 15の特徴に対する感情

A 好ましい				B 特に何も感じない			
⑮	ていねい	21	84%	⑥	ええ、	13	52%
①	すみません	13	52%	⑬	違うことは言わない	13	52%
⑥	ええ、	12	48%	①	すみません	11	44%
②	謙遜	10	40%	⑨	目をみない	11	44%
⑧	うなずく	10	40%	③	気持ちと違う	10	40%
⑩	何度もお礼	9	36%	②	謙遜	8	32%
⑪	よくほめる	8	32%	⑩	何度もお礼	8	32%
⑦	あなた、おまえ	1	4%	⑧	うなずく	7	28%
⑨	目をみない	1	4%	⑪	よくほめる	7	28%
⑬	違うことは言わない	1	4%	⑭	相手が理解する	6	24%
③	気持ちと違う	0		④	YN はっきりしない	5	20%
④	YN はっきりしない	0		⑤	回りくどい	4	16%
⑤	回りくどい	0		⑦	あなた、おまえ	4	16%
⑫	はっきり言わない	0		⑫	はっきり言わない	4	16%
⑭	相手が理解する	0		⑮	ていねい	3	12%

C 在日期間別感情分布

	2 年未満	3 年未満	3 年～
①	(1)(2)	(2)	(1)
②	(1)(2)	(2)(3)	(1)(2)(3)
③	(3)	(2)	(2)(3)
④	(3)	(3)	(3)
⑤	(3)	(2)(3)	(3)
⑥	(1)(2)	(1)(2)	(1)(2)
* ⑦			
⑧	(1)	(2)	(1)(2)(3)
* ⑨	(2)	(2)	(2)
⑩	(1)	(2)(3)	(1)(2)(3)
⑪	(1)	(1)(2)(3)	(1)(2)
⑫	(3)	(3)	(3)
⑬	(2)(3)	(2)	(2)(3)
⑭	(3)	(2)(3)	(2)(3)
⑮	(1)	(1)	(1)

* 特徴的と捉えた回答が少ない

D 違和感を覚える強さの順

	⑫	⑤	④	⑭
最も違和感	8	4	3	2
2 番目	3	5	5	2
3 番目	4	4	1	2
計	15	13	9	6

(3 つまで選択)

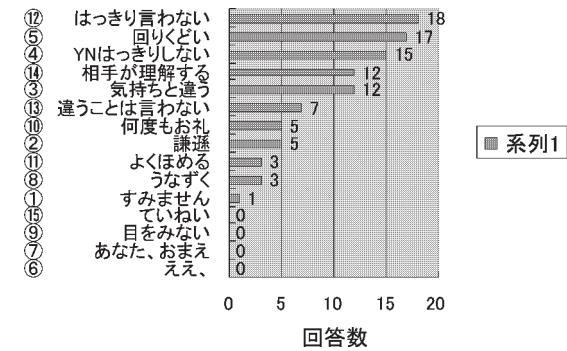


図 2 違和感を覚える話し方

表 5 同意項目の使用頻度

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
よくする	14	6	0	0	0	9	2	7	1	6	4	1	0	0	16
ときどきする	0	4	0	0	0	2	1	2	1	4	5	0	0	1	4
あまりしない	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
まったくしない	0	0	2	2	2	0	1	1	0	0	0	1	2	1	0

2 同意項目に対する感情とその理由：滞在期間が長くなると「少しそう思う」程度の者もいたが、中国人は日本人の話し方が、一般的に丁寧だと回答した。しかもそのことを好ましいと捉えている回答が最も多く（表 4A）、その感情は滞在が長くなっても変わらなかった（表 4C）。好ましさの理由としては、「相手への尊敬が伝わる」「気持ちがよい」といったコメントが見られた。次に好ましく捉えているのは①と⑥であったが（表 4A）、これらに対しては、やさしさや礼儀正しさ、気配りなどを感じているコメントが多かった。しかし、①⑥ともに、好ましいと答えた者とほぼ同数、特に何も感じないと答えた者もいた（表 4B）。②⑧は好意的に捉えた者が特に何も感じない者よりやや多い結果となったが、滞在期間が長い者の中には抵抗感を持っている者がおり、謙遜表現については、「複雑だ」「理解できない」という反応もあった。一方、回答者の過半数が違和感を覚える話し方は多い順に⑫⑤④となり（図 2）、滞在期間による差もほとんど見られなかった（表 4C）。「本当の気持ちがわかりにくい」「相手に迷惑」「だまされた感じがある」などがその理由に挙げられていた。続いて回答数の多いのは⑭と③であった。⑭については、「外国人にとって理解するのは無理」というコメントが多かった。③では⑫と同様に、「本音で、すなおに」「だまされた感じ」といったコメントもあった。③は特に何も感じないと答えた者も 10 名おり、⑭③ともに、滞在 2 年以上になると違和感が少なくなる傾向が見られた。次に、違和感を覚える強さの順に 3 つ選択してもらった結果、やはり⑫⑤④の順となった。特に「はっきり意思表示しないこと」に対しては、約 3 分の 1 の回答者が、最も強い違和感があると回答した（表 4D）。

3 同意項目の使用頻度：表 5 は、日本人の話し方を自分でどのくらい使っているかを表したものである。「よくする」のは⑮が最も多く（64%）、「時々する」も加えると 80% に上る。ついで「よくする」者が多いのは、①（56%）、⑥（36%）が続く。これらはすべ

て彼らが好ましい話し方と捉えているものであり、滞在期間の長短、日本語レベルに関係なく丁寧に話し、滞在期間が長くなるほど「すみません」を使っていた。話を聞きながら「ええ」「そうですね」などとあいづちをいれる頻度が高いのは、滞在期間が長いのか、日本語レベルが高い者であった。次によく使うと答えたのは⑧②⑩と続き、⑪も「時々する」と合わせると 40% 弱が使うと答えた。一方、③④⑤⑬は複数の者が自分ではまず使わない、と回答していた。

4 その他の気づき：提示した 15 項目の特徴的な話し方以外に、日本人の言語行動で気づいたこととして以下のような記述があった。

- ・音を立てずに熱心に話す。
- ・上下関係、社会的地位を反映させる言葉が多い。
- ・相手の意見を聞く。
- ・「頑張って」とは言われるが、「よくできた」とはめったに言われない。
- ・挨拶をよくする。
- ・冗談が少ない。

IV 考 察

小宮ら²⁾は、①～⑤の項目を母語の話し方と違いを感じる点として挙げ、複数の大学、大学院で学ぶ、23 カ国 1 地域からの留学生に尋ねた。回答者全体の結果は、多い順に④③②①⑤となり、中国人回答者の結果は②③④①⑤であった。本調査では、日本人の話し方の特徴として挙げた①～⑮の項目に同意するかどうかを尋ねた結果、本調査でも①～⑤の項目の中では①と②が上位に入っており、日本で学んでいる中国人達は大学、大学院、分野を越えて、謙遜表現を日本語の顕著な特徴と考え、中国語の話し方と違うと捉えていることがわかる。また小宮ら³⁾は、東アジア出身者の中で、中国人は敬語や丁寧表現といった日本人の礼儀正しさを好ましく捉えていること、日本語の話し方で取り入れたい点があると回答したのも、中国人が最も多かったことを報告している。本調査でも、中国人は、

日本人の「丁寧な話し方」や「あいづち」などを礼儀正しいこととして好ましく捉え、自分でも丁寧な話し方をしているという回答が最も多かった。日本人回答者からも中国人の言語行動が丁寧で礼儀正しいとの記述が見られるところから、当医学部の中国人は日本語で話す時、常に意識して礼儀正しく、丁寧な話し方をしていることが窺われる。そして、滞在期間が長い者や日本語レベルが高い者は、自分でも「すみません」や「あいづち」を高頻度で使っていると答えている。東洋人は個人主義の西欧系に比べて、周囲の人間との強い関係性を志向する⁴⁾と言われるが、中国人達は、日本文化では、儀礼的表現を用いて相手への尊敬を表すことが、関係を作る上で欠かせない要素になっていると理解しているのではないだろうか。

一方、興味深いのは、③④は本調査において、⑤は本調査でも小宮ら²⁾の調査でも、日本語の特徴的な話し方としては低位に位置していることである。つまり、どちらの調査でも、「まわりくどい」話し方への強い印象がないことを表しており、従来言われてきた日本人（少なくとも外国人留学生達の周辺にいる日本人達）の婉曲表現は変わりつつある可能性を示唆している。本調査では、それに加えて、「気持ちに反することを言う」「Yes, No がはっきりしない」も、「すみません」や「謙遜表現」の多用ほど強い印象を与えておらず、当学部中国人が接する日本人達の多くは、直接的ではっきりした意思表示をしていることが窺われる。それには、専門分野の特性や、留学経験から西欧文化への慣れを持つ研究者が多いことなどが要因として考えられる。話す時に直視しない人が極めて少ないことも、同様の理由からと思われる。しかし同時に、日本人回答者達が、「はっきりした自己主張」を中国人の最も顕著な特徴として挙げ、しかるにその裏面として、日本的「婉曲であいまいな話し方」を中国人にとって理解が困難な話し方として挙げていることを考え合わせれば、異文化間での誤解を避けるために、はっきりした意思表示を心がけている可能性も考えられる。

本調査の中国人回答者達は、日本人の話し方が、必ずしも「Yes, No がはっきりせず、回りくどい」とは思っていないが、このような表現方法は、小宮ら³⁾の調査結果と同様に、「違和感のある話し方」として上位に挙げられていた。中でも「意思表示がはっきりしないこと」は、滞在期間の長短にかかわらず、中国人にとって最も抵抗がある話し方であるのは間違いない。

自分の考えをはっきり言わないと、「本当の気持ち」がわからなくて困る」「他人迷惑」「だまされた感じがする」といったコメントがそのことを明確に表している。中国人は、日本人が回りに同調することに対してさほど違和感はなくとも、自分では同調せず、はっきり意思表示することが本調査でも示されていた。また、日本人の「すみません」や「謙遜表現」の多用に関しても強い印象を持っていた。それに対して、日本人回答者達は中国人の「声が大きく」「自己主張が強い」ことに衝撃を感じる一方、十分理解しないまま、「わかりました」と答え、思い込みで行動されることへの戸惑いも見せていた。そこで、いくつかの文献を参考に、これらの行動の根源、それを支える価値観をさぐり、互いが何故強い印象や違和感を持つのかその要因について、考察する。

A 中国人の自己主張への抵抗感と日本人の婉曲表現への違和感

日中比較文化関連の文献を調べると、「面子」「関係」「実利主義」「本音」などと並んで、「自尊意識」が中国人の心理や行動のキーワードの1つとして浮かび上がってくる。園田⁴⁾はその著書の中で、中国人が、特に青年層において、日本人に較べて自己評価が高いことを示した2つの調査結果を引用し、自らの経験と照らし合わせながら、中国人の自尊感情の強さを指摘している。中国には「10人の男がいれば、9人は自慢をする」ということわざもある⁵⁾そうで、私自身も「どうしてあの人が奨学金に推薦されて自分が推薦されないのか」「自分のほうが大学の成績はずっとよかった」といった発言を耳にすることがある。自己を抑制することを美徳と考える日本文化からすると、自己主張は自己顕示欲が強く、不遜だと思われかねない。しかし、300年以上異民族によって統治され、「すでに春秋戦国時代には厳しい群雄割拠の環境にあった⁶⁾」という中国の歴史や、比較にならない人口を考えれば、謙虚に卑屈になっただけで生きてゆけなかったことは容易に想像できる。言語を考えても、中国語は構造的に英語により近い形になっている。すなわち、言いたいことを先に伝えようとする言語構造（例えば「我愛中国」、「不要謝」）になっているといえる。反対に日本語では自動詞と他動詞を使い分けることで、動作の主体をできるかぎりぼかす（例えば、中国語で「コピー機をこわした」と言うところを、日本語では「コピー機がこわれた」と言う⁷⁾）といったこともある。また、中国語は日本語のように助詞を用いず、それ自体

が意味を有する漢字のみで出来ている点も、ぼかしに不向きな言語といえるだろう。

本調査では、中国人に「日本人は小さな声で熱心に話す」という印象を持たれている一方で、日本人からは「中国人は声が大きい」という興味深いコメントも聞かれた。Hall⁶⁾によれば、中国は文化的には日本と同じく高コンテキスト文化（意味の伝達や解説を言語コードによらず、場面のコンテキストへの依存度が高い文化）に分類されているが、本音の中国人と言われるように、日本人に比して、はるかに言葉を使って、より直接的に表す。従って、相手にも直接表現を期待する。このような文化から見れば、遠回しで、明確に意思表示しない日本人の言動は、相手に対して、常に話し手の真意を推測する意識的努力を強めていることになる。そのことが、議論好きと言われる中国人にとっては、違和感を最も強く感じさせるのも当然であろう。本調査では、「まわりくどい」「はっきりしない意思表示」などの特徴に対して、「本当にそうだ」という中国人からの回答が半数前後に過ぎなかったこと、また日本人も、自分達の遠まわしで控えめな表現は中国人にとって理解が困難だと認識していることから、この点において受け入れ側の異文化理解が進んでいる可能性はあり、幸いだと言ってい。

B 詫びと感謝

私達はもともと詫び表現であった「すみません」を感謝表現として、あるいは呼びかけや単なるあいさつとしても広範に使っているため、常に詫びているわけではないが、当医学部の中国人が接する日本人はかなり「すみません」を使い、それに較べ中国人は日本人ほど詫びない、「对不起(すいません)と言わない」⁵⁾⁷⁾⁸⁾ことが推察できる。田島⁹⁾は、中国では「对不起」より「我不是故意的(わざとやったわけではない)」のほうをよく聞き、この点は個人から中央政府にいたるまで一貫している、と述べている。巨大な人口を抱え、競争が激しく、「実」を重んじる中国社会では、謝罪は言葉で表すのではなく、行動で表すもの⁵⁾で、その重みは日本の比ではないという。文革で人心が荒み、それどころではなくなったという節もある⁷⁾が、非を認めるからにはその責任も追求されるため、自分に危害が及ばないことがはっきりしない限りは、謝罪は容易ではないのだと思われる。

加地⁹⁾は「日本人には中身を問わないで様式化してしまう」思考があると言う。日本人が感謝と同時に相手の負担や借りにまで思いを馳せ、「すみません」を

頻発している内に、「すみません」は社交辞令化し、謝罪の重みは薄れていく。加えて、迷惑をかけたことを詫びれば自己反省をしたと解釈され、謝りさえすれば許される「甘さ」も持っている日本社会である。本調査の中国人回答者の半数強は「すみません」を好ましく思い、半数弱は特別な感情を持っていなかった。違和感があると答えたのは1名に過ぎず、自分でも使っていると回答した者も多数いた。「礼儀正しくて、マナーがいい感じ」といったコメントにも表れているとおり、彼らの環境では儀礼が必要と感じていること、「すみません」が社交辞令であることを理解している所以ではないだろうか。真に謝罪が必要な時でも、日本では厳しい責任追及を恐れず、まず詫びることが期待されていることを理解できれば、中国人にも謝罪の抵抗感は薄れるであろう。

日本人から見れば中国人は一般的に感謝が足りないと写る。このことについても、詫びと対比させて考えることができる。すなわち、「型の文化」と言われる日本語では中身よりも様式として感謝を表現することが期待される。「型」となった感謝の中身は形骸化してしまう。それを補うために日本人は何度も感謝を述べなければ思いが伝わる気がしないのだろう。一方、中国では、やって当然と考えられる事柄に対して謝辞を述べることはないだけでなく、中国語の「謝謝」には名実ともに重みがあると、村山⁷⁾は言う。従って、一度言えば、感謝は伝わるとの考えが背景にあり、繰り返すことによって当初の感謝が欺瞞と解釈されかねない。本調査でも、「何度もお礼を繰り返す言う」ことに対する抵抗感は、「すみませんの多用」に対してよりも、強く表れていた。

「感謝と詫び」の表現に関する調査を行った三宅¹⁰⁾は、詫び心理以外の場面で詫び表現が選択される決定要素として、従来言われている「相手の負担の軽重、自分の利益の大小、借りの有無」以上に、「相手が目上か目下か、また親密かどうか」の要素の方が重要と言っている。つまり、上下の関係において、また親密度が低い関係において「すみません」は感謝表現として、あるいは注意を喚起する目的などで、広範に、頻繁に用いられる可能性が高いことを表している。本調査の中国人回答者達の印象は、小宮らの調査²⁾と比べて、「はっきりしない意思表示」や「あいまいな話し方」より「すみません」や「お礼」の頻発に対しての方が強い。そして、「あなた、おまえ」といった親密な呼びかけをほとんど聞くことはない。また、その他

のコメントには「上下関係、社会的地位を反映させる言葉が多い」「先輩、後輩をはっきり分ける」などが見られたことを考え合わせれば、彼らは形式が重んじられ、距離を置いた上下関係が強く意識される環境にいることが推察される。そのような場においては、形からであれ、詫びも感謝も繰り返し表すことによって、対人関係がスムーズに行くのは確かで、中国人が日本人の行動に合わせようとすることは歓迎すべきである。そして同時に、回答者の中には「中国にはない習慣のため、感謝が足りないと誤解された」ことが、違和感の理由になっている者もあり、日本人も、詫びと感謝の気持ちを回数で判断すべきでないことを認識する必要があるだろう。

C 謙遜表現

中国人が、日本語の「謙遜表現」に中国語との大きな違いを感じることにについては、いくつかの背景要因が考えられる。「自己主張」に関して述べたとおり、中国人は日本人に較べて自己評価が高い。謙虚さや自己抑制を美德と考える日本文化と、自分の長所や特長、個性を述べることを自信の表れと評価する中国社会との差が、ここでも要因になっているものと思われる。また、本調査の中国人達が日本的話し方へ違和感を持つ理由の多くは、「本当の気持ちがわからない」「本心を言えがいい」「本心かどうか疑う」「はっきり言えがいい」といった、建前的な話し方や「本当の気持ちと違ったことを言う」ことへの抵抗感を示していたことを考えれば、自己を抑制した、日本語の「謙遜表現」に不自然さを感じるのも頷ける。

私達が謙遜表現を使うのは、目上の者と話をする時や距離を置いた関係者と話す時であることが多い。中国社会は基本的に、縦より横の関係が重要な社会である¹¹⁾と言われている。言語的にも、中国語は日本語のように、文法によって上下の関係や尊敬を表さず、それにとって代わるのが呼称で、謙譲の気持ちは敬称を用いることで表す⁵⁾¹¹⁾と言われている。従って、中国人が、私達の言語行動から日本社会における身分の高低や上下の関係を特に強く意識する可能性は高い。小宮ら²⁾³⁾の調査では、「謙遜表現」をソフトで好ましい

と感じる者がいる一方で、不自然に感じる者もいた。本調査においては、滞在期間の長い者の中に、否定的な感情を持った者がわずかにいたが、「相手への尊敬を伝えられる」と、好ましく捉える者も、また、自分でも使うと答えた者も、高頻度で(40%)存在しており、比較的抵抗感が薄いと思われる。それには、本調査の中国人はほぼ全員研究科に属しており、そこでの日本人との関係は、指導者との上下関係になる。距離を置き、尊敬を表すという意味では、母国での状況とあまり変わらないことが、「謙遜表現」や「すみません」を多用することに対する抵抗感を弱めているかも知れない。

V おわりに

異文化に接する時、私達は通常相手を観察し、次にその行動に自分なりの解釈を加え、自分の規範で評価を下してしまいがちである。お礼の表し方ひとつ取っても自分の規範で評価を下せば、日本人は「中国人は礼儀が足りない」と評価し、中国人は「日本人のお礼はうそ臭い」と誤解しかねない。相違点ばかりを強調することは必ずしも好ましいとは思わないが、外見上の類似性が極めて高い日中間においては、異質性を認識する重要性がより高まるように思える。おやっと思うことがあれば、「何故？」に想いを馳せ、行動の背景要因を相手に尋ねてみれば、なるほどと思うことはたくさんあるものである。まず、相手の文化と自身の文化、その背景にある価値観についての知識を深めてゆきたいものである。

これまで述べてきた行動様式、価値観がすべての日本人、すべての中国人に当てはまるわけではなく、あくまでも最大公約数の日本人、中国人を対比してまとめたものである。文化に上下はなく、相対的なものであることを前提に、すでに行動をとともにしている同士双方が、価値観の多様性を認め合って、情動面、行動面に反映できることが国際的社会で生きる基本であろう。同様のことは患者の視点に立つ医療の現場においても、求められているのではないだろうか。

調査書 1：日本人教職員向け

- 1. 属性：教官 技官 教室事務職員
- 2. 性別：男 女
- 3. 年齢： 歳
- 4. 中国の人々の受け入れ経験年数： 年 ヶ月
- 5. 中国籍の人々の受け入れ現況： 受け入れている 受け入れていない
- 6. 中国語の知識：①ほとんどゼロ（わずかの単語を知っている）
②初歩的言い回しをいくつか知っている
③基礎会話可能
④中級レベル
⑤会話には困らない

- (1) 中国の人々の対人行動で違和感を覚える事柄がありますか。あれば思いつく限り記述してください。
- (2) では、言語行動についてはどうですか。気づく点がありますか。
- (3) 中国の人々の言語行動，対人行動の中で、自分でも取り入れたいと考える事柄がありますか。あれば思いつく限り記述してください。
- (4) 中国の人々が日本人の話し方や対人行動の特徴として捉えていることにはどんなことがあると思いますか。思いつく限り記述して下さい。
- (5) (4)で挙げた事柄の中で、中国の人々が違和感を覚えたり，理解することが困難だろうと，あなたが想像する事柄を丸で囲んでください。

調査書 2：中国人向け

- 1. 属性（属性）：学部生（学部生） 院生（院生，包括研究生）
研究者（研究者） 教官（教官）
- 2. 性別（性別）：男（男） 女（女）
- 3. 年齢（年齢）： 歳（岁）
- 4. 現在家族と同居（目前是否与家属同居）： はい（是） いいえ（否）
- 5. 日本に来て何年（来日几年）： 年 ヶ月（ 年 个月）
- 6. 日本語力（日语能力）：ほとんどゼロ（几乎是零）
初級（初级）
初中級（初中级）
中級（中级）
上級（高级）

- A 左記は日本人の話し方の特徴として一般的によく言われていることです。
(左述是最常被提及的日本人说话方式的特点。)
- (1) これらの特徴について，あなたはどの程度そうだと思っていますか。（这些特征中你认同的有多少？）
① 本当にそうだ（确实如此） ② 少しそう思う（部分如此）
③ あまり思わない（基本不认同） ④ 全く違う（完全不认同）
 - (2) (1)で①「本当にそうだ」か②「少しそう思う」を選んだ特徴項目について，(在(1)中选择①「确实如此」或②「部分如此」者)
A：あなたはどのように感じていますか。（对此你有什么看法？）
① 好ましい（令人满意） ② 特に何も感じない（无特别感觉）
③ 違和感を覚える（有错位感）

B：そのように感じる理由は何ですか。(产生如此感觉的理由是什么?)

- (3) (2)で①「好ましい」を選択した特徴項目について、自分でもそのような話し方をしていますか。(在(2)中选①「令人满意」者，自己也使用那样的说话方式吗?)

① よくする(经常使用) ② ときどきする(有时使用)

③ あまりしない(常不用) ④ 全くしない(完全不用)

- (4) (2)で③「違和感を覚える」を選択した特徴項目について、違和感を強く感じるものから順に並べて下さい。(在(2)中选③「有错位感」者，请将感到错位的項目，按从強到弱的順序排列在下面。)

- (5) 上に挙げた特徴以外であなたが気づいている日本人の話し方の特徴があれば、思いつく限り書いて下さい。(除了上边列举的日本人常见说话方式外，请将你留意到的写在下面。)

B 日本人の話し方以外の対人行動について

(关于日本人说话方式以外的为人处事)

- (6) 自分にとっては理解するのが難しいと感じる日本人の話し方以外の対人行動 (Ex. 贈り物) はどのようなことがありますか。思いつく限り書いて下さい。

(对你而言感到难于理解的日本人说话方式以外的为人处事[如赠送礼品]有哪些，请将你想到的写在下面。)

謝辞 ご多忙の中、調査にご協力いただきました留学生、教職員の皆様にお礼を申し上げます。また、調査紙の中国語訳には楊 小平先生、丁 開さんの協力を得ました。深謝します。

文 献

- 1) 田中共子：留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキル．ナカニシヤ出版，京都，2000
- 2) 小宮修太郎，平形裕紀子，長能宏子：日本人の会話とその教育に関する留学生の意識調査—中国人，韓国人，台湾人の回答結果を中心に—．筑波大学留学生センター日本語教育論集 13：129-162，1998
- 3) 小宮修太郎，平形裕紀子，長能宏子：日本人の話し方について留学生が持つ印象とその要因—中国人・韓国人・台湾人留学生の比較—．筑波大学留学生センター日本語教育論集 16：47-82，2001
- 4) 園田茂人：中国人の心理と行動．NHK ブックス，日本放送出版協会，東京，2001
- 5) 陸 恵和：こんな中国人こんな日本人．関西学院大学出版会，西宮，2001
- 6) Hall ET：Beyond culture. Doubleday, New York, 1976
- 7) 村山 孚：中国人のものさし日本人のものさし．草思社，東京，1995
- 8) 田島英一：「中国人」という生き方—ことばにみる日中文化比較．集英社新書，東京，2001
- 9) 加地伸行：現代中国学．中公新書，東京，1997
- 10) 三宅和子：感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム．筑波大学留学生センター日本語教育論集 8：19-38，1993
- 11) 盧 万才：中国語呼称の敬語的機能に関する考察．麗澤大学紀要 74：239-257，2002

(H 15. 3. 26 受稿；H 15. 5. 22 受理)